

野木小同窓会報

第 19 号
平成 19 年 11 月
野木小学校同窓会編集部



ご挨拶
第47回卒(昭和31年)
同窓会長(武生) 清水 勇雄

同窓会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にて活躍のこととお慶び申し上げます。日ごろは同窓会に対しまして、特段のご理解とご協力を賜り、誠に有り難く厚くお礼を申し上げます。

さて、私こと平成十九年三月総会で会長に選出されました。歴代の立派な先輩諸氏と大違いの、もとより浅学微力非才の身でございますが、お引き受けいたしました以上、野木小同窓会、地域のため、お役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、若狭町も誕生から三年目に入り、総合計画(町づくり計画)が策定されました。

その中で教育の基本計画として、第一に学校教育の充実、学校施設の整備、家庭地域との連携、児童の安全確保等が出されておりますが、我が野木小学校では、先生方のすばらしいよきご指導のもとに「輝く野木の子」の育成をめざして、保護者(家庭)地区各種団体等と地域全体で取り組んでいただいております。また、住宅も少しずつではありますが建ててきておりますし、子ども達も必ず増えると期待しております。

このような現況の中で、いよいよ来年度本校が「野木小学校」と改称されてから百周年の記念すべき年を迎えます。

そこで、同窓会が中心となり百周年記念事業実行委員会を設立し、元同窓会長新田賢氏に委員長をお願いし、準備を進めていただいております。今後とも、野木地区の皆様方、卒業生の皆様には何かと協力いただかなければなりません。が、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、会報

発刊にあたり多くの方々より寄稿を賜り深くお礼を申し上げます。同窓会各位のご発展とご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。



同窓会長退任ご挨拶

第42回卒(昭和26年)
前同窓会長(兼田) 福井 康 一

会員の皆様におかれましては、御祥福にてお健やかに過ごしのことと拝察致し、誠に慶賀に存じます。申すまでもなく、私こと、今年の同窓会役員任期満了により、平成十九年三月末日をもって会長の職を辞させていただきます。

在任中は何かと、役員各位、会員の皆様、更には学校関係者各位の特段のご指導ご支援と温かいご協力を賜り、お陰さまで大過なく任期を勤めさせていただくことができました。

した。誠に有り難く衷心より深く感謝申し上げます。

よって、後任会長には清水勇雄氏に、副会長に井上幸夫氏が選任され、その職をお願いすることになりました。

顧みますと、四年前に副会長と新田賢元会長と田中庄之祐氏から公民館長時に声をかけていただき、この会の役員の仲間入りをさせていただいたのが縁だと思っております。

後に、歴史ある同窓会長をお預かりしその間、会誌、会

報等の発刊や特に、来年の「野木小学校百周年記念事業」実行委員会の設置では、企画等で再三再四の会議を開催させていただき、各位にはたいへんご迷惑もおかけしましたし、その委員長には、元会長の新田賢氏を選任いただきました。今、各専門委員会で内容等についてご検討願っています。その時期には、色々とお世話になります。

一方、学び舎では、すばらしい先生方に恵まれ、数少ない児童ながら今、伸び伸びと地域の各組織や里民のご支援を受け、支えられながら大きく次世代の担い手に向かい育っています。

結びに、もう二十数年を数えるこの同窓会をどうかひとつ、清水新会長を中心に歴史ある節目の「野木小学校百周年記念事業」のご成功と本会ならびに母校の更なる発展を祈り、願わくば会員各位のご健勝、次世代を担う児童達の健全な成長発展を祈念しつつ、言葉足らずながら退任のご挨拶といたします。本当にお世話になりました。

不 宜 謹 言



野木小学校の近況

学校長（堤）内藤 譲 治

学校周辺の木々の葉が色づいてきました。同窓会員の皆さまにおかれましては、町内はもとより全国各地でますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日ごろの温かいご理解とご支援に衷心より感謝申し上げます。

さて、今年度から、文部科学省の調査研究校として、西陣中央小学校との交流を進めています。六月には、本校の四・五・六年生が西陣中央小学校を訪問し、初めての交流をしました。都会と田舎、小規模校と大規模校、生活環境は大きく違いますが、すぐにうち解け、笑顔で活動していました。「西陣の特産は○○ですが、野木の特産は何ですか？」というよふか質問も多く、答えにつまる場面もありました。子どもたちは「もつと野木のことを知らなくては…」と反省し、「ふるさと」を再発見するきっかけになったと思っ

ています。西陣中央小学校とは二年間継続して交流学习を進めることになっていきます。京都にお住まいの同窓生のみならず、ご支援いただければと思います。また、五・六年生は、「野木小学校百年のあゆみ」の学習に取り組んでいます。記念式典で発表できたらと意気込んでいます。同窓会員の皆さま、来年の十月に行われる「野木小学校百周年記念式典」には是非母校を訪れ、後輩を励まして頂きますようお願い申し上げます。最後にになりましたが、皆様のご活躍とご多幸を祈念申し上げます。ご挨拶いたします。



あれから五十年、 そしてこれから五十年

第52回卒（昭和36年）
県議会副議長（上野木）

中川 平 一

私は昭和二十三年生まれで、戦後のいわゆる団塊の世代である。戦争を知らない世代として、若者の代名詞のように言われたのが、ついこの間だったと思うのだが、サラリーマンであれば、はや定年退職を迎える年である。

私は未だ現役街道をひた走っており、普段は昔を懐かしんでいる余裕もないのだが、今、寄稿するにあたり、小学校時代を思い出してみようと思う。

「これまでで、一番楽しくて幸せだったのはいつですか。」と問われれば、それは躊躇なく「小学校の時です。」と答えるだろう。今思えば、とにかく楽しかった。一学年で確か五十一名程だったと思うのだが、学校へ行くのが何より楽しかった。春夏秋冬、四季を通して友達と遊んだことばかりが思い出される。学校の行き帰りが楽しかった。玉置の集落内の旧県道沿いに

ある小川に、木端などを浮かべて競争させたりしながら友達と帰った。習い事も塾もなく、テレビもおもちゃもゲームもなく、時間だけがたつぷりあった。自然の中で、大勢の友達と夢中になって遊び呆けたあの頃、幸せな思い出として今も鮮明に残っている。

人生は意外に早く、あれから五十年。お陰さまでこの春には野木の皆様をはじめ、多くの方々に支えられて三度県会議員として県政の場に送り出していただいた。

地方統一選挙後の夏の参議員選で、自民党は大敗し、安倍総理は突如政権を投げ出してしまった。その結果、安倍内閣のキャッチフレーズ「美しい国、日本」はすっかり色褪せてしまい忘れ去られようとしている。

「美しい国」それはいかにも抽象的で理解しにくい表現であるが、私は今の日本に必

要な思想ではないかと思う。戦後、日本は目覚ましく発展し豊かになった。電気製品や自動車の普及、経済成長と共に人々の暮らしは便利になり、今や飽食の時代、使い捨ての時代と言われている。

私の子どもの頃とは比べようもない程に恵まれた今日であるが、私達は何か大切なものを忘れてきているのではないだろうか。

今年の春、野木小学校を卒業した娘は、果たして五十年後はどんな社会に生きているのだろうか。今よりもっと便利な暮らしをしているのだろうか。願わくば、平和で「美しい国」日本の住人であってほしいし、日本人としての誇り、大切な心を受け継いでほしい。そして、思いやりがあり感謝の心を忘れない「美しい心」の持ち主であってほしいと思う。

因らずも今年、私は県会副議長の大役を拝命し、地域や県民の皆様のご幸せを願ひながら、働かせていただいている。微力な一地方議員ながら、五十年、百年先の日本を、そして故郷のあるべき姿を想いながら日々力を尽くしていきたい。今あらためてそう思う。

旧職員からの便り

音海より

(平成9年度〜平成13年度の教頭)

小浜市 古田 貞明

野木小学校で皆様にお世話になって以来、早五年余りが過ぎました。同窓会会長様はじめ理事の皆様、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。野木小学校勤務時には、皆様に大変お世話になりました。事務局より原稿の依頼を受け拙文を記しながら、在職時にいただいた多くの皆様のご厚情を思い起こしています。

私は現在、高浜町の音海小中学校に勤務させていただいております。音海小中学校は、若狭湾に突き出た内浦半島にある全校児童生徒十四名の小中併設校です。学校は集落から坂をわずかばかり上った所にあり、校庭や校舎の三階からは内浦湾や若狭湾が望めます。校長室からは窓越しに若狭の秀峰青葉山が見え、日々違った様子を楽しませてくれます。勤務校へは小浜より片道一時間足らずの通勤になります。

海の色や空の色、山の緑、日差しや水田の様子などに季節の変化を楽しんでいます。また、天気の良い日は通勤途上も気分が良く、学校のことや子どもたちのことを考えるよい時間となっています。

会員の皆様には、音海へ実際に足を運ばれた方は少ないかと思われませんが、高浜原子力発電所を通り過ぎ車で三分程で到着する音海区は、関西では釣りのスポットとして有名だという話も聞いています。休日には関西からの釣り客で賑わい、防波堤や岸壁には釣り人と竿が並ぶ光景が見られます。夏休みに実施したPTA親子教室では、地区の方が差し入れて下さったサザエを炭火で焼き、音海の海の幸を堪能させていただきました。音海には国際港があり、主にロシア船が木材を運んで来ています。自転車に乗り音海区

内や県道を走るロシア人だと思われる人々をよく見かけます。七十余りの世帯の音海区でも少子高齢化が進んでおり、老人世帯も少なからずあるようです。

国道二十七号線を車で走ることがよくあるのですが、北川の堤防越しに野木小学校の校舎が見えます。その校舎で過ごす子どもたちや先生方もすっかり入れ替わり、私がお世話になった「上中町」も既に「若狭町」となり、縁が遠くなってしまうました。野木地区の何人かの皆様とはたまにお会いすることもあり、言葉をかけていただくことをあまりがたく感謝しています。また、中学校体育連盟の若狭地区の大会で、野木小学校卒業生の成長した姿を見、うれしく思

ったこともありました。私も年齢を重ね、以前にはなかった感情を自覚するときがあるようになりました。野に出て、ふるさとの山や緑・田・川などを見渡すとき、自分を包むそれらに自分が癒されていることを感じる時があります。また、過去の自分が生きた日々の光景や人々との

つながりの記憶が自分の大切なものとなつていてることを感じるときがあります。私の野木小学校勤務時代にも、そのような私にとって大切な記憶となる数多くの体験を得させていただきましたこと、この機会にあらためてお礼申し上げます。

野木の里と

野木の子どもたち

(平成12年度〜平成15年度)

勝山市 桑原 直子



野木小学校は、私が教員生活のスタートを切ることになつた思い出深い学校です。初めての嶺南、初めての地でのひとり暮らしに不安ばかりが募っていた私を迎えてくれたのは、人なつっこい子どもたちと、野木の豊かな自然と、温かな人たちでした。初めの不安はすぐに消え、一ヶ月もしないうちに、野木は私の第二のふるさとなりました。初めて担任した二年生の子どもたちとは、四年生までの三年間を共に過ごしました。女子が「モーニング娘。」に

末筆ながら、野木小学校・野木小学校同窓会・野木地区のますますのご発展をお祈り申し上げます。

なり準備したカラオケ大会、野ぎくタイムにチャレンジした梅干し作り、二〇歳の自分へのタイムカプセルを作ったこと(今も私が保管しています)、六送会で「サザエさん危機一髪」の劇をしたこと、クラス全員ハリケーンを成功させるために血の出るような努力をした一輪車。そして、毎日の授業や休み時間。三年間の間には、お説教しなければならぬ出来事や小さなけんかもあつたけれど、今となっては楽しい思い出ばかりが浮かんでいきます。次に担任し

たのは九人の四年生。マラソン大会で学年賞をとったり、図工でモデルにしたイカをさばいて食べたり、木枯らし吹く中ボランテアでゴミ拾いをしたりと、スポーツ大好き、好奇心旺盛、やる気満々元気いっぱい学年でした。もちろん、担任した学年以外の子どもたちとの思い出もたくさんあります。児童玄関や購買のシャッターに巨大壁画を描いたこと、クラブでプラモデルを作ったこと、おいしい給食を縦割り班で楽しく食べたことなど、野木小学校での毎日、本当に幸せで、充実していました。

会員からの便り

同級生のこと

第45回卒(昭和29年)

箕面市 真田隆子

(旧姓・宮川)



まだまだ若い気分で過ごし、一人も欠けることなくがんばっています。男性もほとんどの方が、仕事の重要なポストから解放され、のんびりと自分のやりたいことやスポーツ、趣味などで生活を楽しんでおられます。

このような四年間を過ごすことができたのは、何よりも素直で純真な野木の子どものちのお陰だと思います。そして、その子どもたちを慈しみ育ててきた保護者のみなさま、地域のみなさまのお陰です。野木での四年間、未熟な私を支えてくださった野木の里のみなさま、本当にありがとうございます。

野木を離れてから、三年以上がたちました。初めて担任した子どもたちも今や中学三

年生。年月のたつのは本当に早いものです。みんなが大人になり、私がおばあちゃんになっても、野木の里と野木小学校が、変わらず素晴らしいふるさとであることを心から願っています。

私たち同級生は、野木小学校を卒業以来節目節目に同級会を開いていましたが、三、四年前予定をしていた日に台風が来て中止となり、昨年暮れに久しぶりに会が実現しました。

卒業した時は三十九名いたのですが、亡くなられた方が四名います。出席したのは十八名で、遠くは東京、神奈川から参加もありました。私たちのクラスは男子が二十九名、女子が十名と女子が少なく、

小学校時代は「女子を大切にしない」と先生達がよく言われていました。しかし、女子は案外たくましく活発に育ち、世間で騒がれているようないじめもなく、村祭りでは友達の家交互に泊まり込み、楽しんだ思い出があります。

六十代半ばになっても、ハツラツとして介護する側で活躍する人、農作業に専念する人、会社経営に携わる人、スキューバダイビングや水泳、卓球等スポーツを楽しむ人など、

共にごった小学校の六年間は、連帯感を強くしお互いに気心がわかり、久しぶりの会に話はずみませんでした。ただ、前回計画していたクラス会の日に台風が来て、それを一番心配してくださった五・六年生の担任だった奥本先生が、その後病気で亡くなられ、とても悲しい気持ちになりました。先生は、私たちクラスの面倒を時間を忘れて真剣に見てくださり、卒業してから一人ひとりの個性を尊重し、覚えてくださっていて偶然お会いしても、先生の方から声をかけてくださるとも立派な先生でした。お元気でいたら、今回のクラス会にももちろん出席していただいて、先生の優しさや親切にふれ、勇気をもらい元気づけられたことと思いい残念でなりません。



昭和29年卒業
みんなどうかわったかな？



学び舎・故郷を思う

第47回卒(昭和31年)

市場 水口清作

今回、私の母校である野木小学校の同窓会役員の皆様より、会報を出版するにあたり、思いついた一言を是非紹介していただきたくのご依頼を頂戴しました。

多くの偉人、諸先輩がお見えになる中、私如きにお声を掛けていただき、感謝を申し上げなければならぬと思っております。

月日の経つのは本当に早いと言われるように、野木小学校の学び舎を巣立ち約四十年が経過しました。私たちは男子十六名、女子十五名の学年で「共に温厚で親しみが満ちあふれ、思い遣る心を持った友」であったことを一枚の卒業記念写真を眺めながら懐かしく当時を思い浮かべております。また、校長先生をはじめ諸先生方も、教育の基礎の場として「規律正しい学校生活ができるように、厳しさの

中にも優しさを加え、児童として恥ずかしくない教育」をしていただいたことを改めて感謝しております。

私の唯一の楽しみは卓球をすること、時間があれば我々一番に台の前にいたほどで、腕前の方は少しだけ自信もあり生まれながらの負けん気も後押しをして勝負目標が自分のよき思い出です。

今思えば、校舎もその時代としては別格の木造で、自然優美な野木の里に建設され創意工夫された建築・構造物であり、沿革を拝見するたびにご尽力された各位に感謝の念を申し上げます。野木小学校を良き友と希望を持って卒業し、上中学校を経て家業である建設業に従事することになりました。今日に至るまでの苦勞を乗り越えられたのも、常に母校の恩師(先生)と他二人の恩師に巡り合

うことができたからこそと常々感謝をいたしております。

後に二人の恩師を少しだけ紹介させていただきます。今、学校教育では学習指導要領が改訂されるなど教育の改革が進められており、更には少子化という大きな課題に直面され大変な苦勞がうかがえます。時代の変化、流れでそれぞれの改革は必要不可欠と思われませんが、信頼できる学校構築のためにも地区はもとより、町全体の取り組み姿勢が重視されると思われま

す。

母校ではそのような背景を踏まえ、「地域とともに輝く野木の子」という教育目標を制定され、職員、保護者をはじめ地域一丸での推進を拝聴し、同窓生として深く敬意を表し

たいと思います。

後文に私感で誠に恐縮ですが、人は心身に必要な支え(置所)が生じると思われます。代して恩師と表するのは不正確かもしれませんが、事業継続の中で顧客大事の基礎知識を徹底して教わった初代社長、更に「蔵の財より身の財優れたり、身の財より心の財第一なり」と人生の生き方を教わったSGIインターナショナル会長

池田大作先生を心の師と紹介し、「将来を担う輝きのある子宝」のためにも、私たちの事業性を活かし「地域社会に貢献する姿勢」をさらに深め、伝統ある母校の学校づくりに率先垂範したいと思っております。

最後になりましたが、野木小学校同窓会の関係各位の皆様には、今後ともより一層のご活躍とご発展をご期待し、結びとさせていただきます。

野木小学校の思い出と言えば、まず第一に通学途中の四季折々の風景である。私の集落堤から野木小学校まで片道一里あるので、雨の日も風の日も毎日歩いて通いました。春はレンゲ畑や菜の花畑の中を、夏は土埃の舞う中大汗をかきながら、秋には紅葉の中を、そして冬は真っ白な雪の中や一面氷が張った田んぼの上を長靴でスケートのように滑りながら学校に行きました。懐

かしい思い出です。次に、学校行事も楽しかった。秋の運動会での地区対抗の競技の数々。子どもだけでなく大人も一緒に遊んで楽しんでいたように思います。その当時は、今のように娯樂が少なかったからでしょうか。

さて、我々昭和二十二年生まれは、今年還暦を迎える年になってしまいました。そんな折り、居関正幸君より「同窓会を三重県伊勢でやるから

野木小学校同窓会に参加して

第51回卒(昭和35年)

松戸市 内藤健雄



昭和31年卒業
「みんな輝いていました」

野木小学校の思い出と言えば、まず第一に通学途中の四季折々の風景である。私の集落堤から野木小学校まで片道一里あるので、雨の日も風の日も毎日歩いて通いました。春はレンゲ畑や菜の花畑の中を、夏は土埃の舞う中大汗をかきながら、秋には紅葉の中を、そして冬は真っ白な雪の中や一面氷が張った田んぼの上を長靴でスケートのように滑りながら学校に行きました。懐かしい思い出です。次に、学校行事も楽しかった。秋の運動会での地区対抗の競技の数々。子どもだけでなく大人も一緒に遊んで楽しんでいたように思います。その当時は、今のように娯樂が少なかったからでしょうか。

さて、我々昭和二十二年生まれは、今年還暦を迎える年になってしまいました。そんな折り、居関正幸君より「同窓会を三重県伊勢でやるから

参加しないか」との連絡をいただき、二月二十四日・二十五日の二日間喜んで参加させていただきました。他のみんなは郷里（野木）にいる人を中心にやっているらしいのですが、私は千葉に住んでいるためなかなか参加できず、上京して以来四十年ぐらい同級生と会っていないかったです。

当日、私は東京から名古屋経由で伊勢のホテルへ、ほとんどの人は野木から貸し切りバスで、伊勢神宮に参拝した後ホテルへのコースでした。私の方が先にホテルに着き、今か今かとみんなが着くのを楽しみに待っていました。三十分ぐらいしてそれらしい一行が着きましたが、私は誰が誰だかさっぱりわかりません。幹事の正幸君らしい人が声をかけてきて「健雄君やね」と言ったので安心しました。正幸君はイメージより少し太っていた。思い出が残っている幸夫君や昭男君、千代子ちゃん、玲子ちゃん等に挨拶して割り当てられた部屋に入ってからまたびつくり。全く記憶にない人が二人もいたのです。正幸君に聞くと、そのうちの一人は



昭和35年卒業
『我ら団塊の世代 還暦同窓会』

福田真由美ちゃんのご主人とか、

わからないはずですよ。その後、みんなで風呂に入りさっぱりして、さあ宴会です。私は同窓生とは本当に何十年ぶりの再会のため、一人でも多くの人と話したいので各人の前に座り、野木小学校時代の話をして回りました。当然の事ながら、自然と酒の量も増え相対当酔っぱらってしまいました。この頃には、一人ひとりの顔と名前が一致し、同窓会の雰囲気ややつと溶け込みました。宴会後、一つの部屋に男女集まり、昔話を肴に深夜まで語り合いました。まるで、修学旅行の夜のようにみんな子

どもに戻っていたようでした。翌日は、船上バーベキューで新鮮な魚介類を十分楽しみまたまたお酒。下船後、野木まで帰る人たちが別れ帰路につきました。

私にとってあの二日間は、同級生との懐かしい一時であったと共に、仕事を忘れゆつたりとした二日間でした。また、東京にいて、つい忘れがちであった郷里、野木小学校、同級生を思い出させてくれたすばらしい同窓会であったと思

います。最後に、幹事のみなさん本当にご苦労さまでした。また、こういう機会を作っていただけるようにお願いします。ありがとうございます。



た土と切り株を踏んで歩いた。あのくすぐったい感触のこと。そういうえば、長い釘をもらい、田んぼで釘さしをして陣取り遊びをしたような。

ふるさとに思う

第57回卒（昭和40年）

大野市 中出 あけみ

（旧姓・清水）

のことを思い出す。

春、一面れんげの花が広がる田んぼで、れんげの花の冠や首飾りを作って幸せな気分

に浸っていたこと。
夏休みには、頭の真上に太陽を見ながら川原まで歩き、友達と水遊びを楽しんだこと。そして秋、下校時に稲刈り

後の田んぼに入り、固くなっ

たして新雪の上に倒れるのだ。連続して落ちてくる雪を顔に受けることになっても、おもしろくておもしろくてたまらなかつたあの思い。

また、おそら（早朝、雪の上を歩ける状態のこと）に乗って近道登校をした快さ。

それにしても、四季を通してみんなとやんちゃに遊んでいたものである。こんな私たち子どもが、安心して遊べた環境を大人達がつくってくれてくれたのだなあ、両親は見守り改めて思う。

この同窓会報（前号）に、

私のかわいい姪っ子も両親への思いを書いていたが、本当にふるさとを語るとき、最後には両親への感謝の心で終わってしまう。父が亡くなり十八年。悲しい変化はあつたけれど、ふるさととはあたたかいままである。

同級生のみなさん、お元気

最後の木造校舎

第60回卒(昭和43年)

宇部市 武重和美

(旧姓・丸井)



ですか。お会いしたくなりまして。大好きなふるさとで。

野木小学校―目をつぶると私には懐かしい校舎が思い出されます。昭和四十四年卒業の私達は、旧木造校舎最後の卒業生でした。音楽室の上の六年生の教室からは、毎日ドーンとコンクリートの杭を打ち込む音が激しく聞こえ、ほとんど授業になりませんでした。

目皿のある下駄箱(昇降口)

から講堂を抜けるとピカピカの坂廊下(掃除当番になりたいたい人気ナンバーワン場所)左側には水槽があり、大きな



『夏休みも練習した鼓笛隊』

フナやザリガニがいて、隣には美しい貝の標本が展示されていきました。右側には壁面い

っぱいに世界地図、国名のポタンスイッチを押すと、首都のランプが点灯しました。ポタンをポンポン押しながら歩いて行くと、週番が書く黒板の前にきます。六年生になって、ここに好きな詩や絵を書くのがとても楽しみでした。前には謄写版室、インクの匂いが新鮮で、文集を作るのがとても面白かったです。図書室は、カビ臭い本ばかりでしたが、かくれんぼには絶好の場所、私が小学校入学の前は、何とここが保育所でした。その後、一年教室の奥に移りましたが、小学校の中に保育所があるなんて、今聞くと信じられないような話ですね。

理科室のガイコツや、なぜか保健室のガラス戸棚のてっぺんに置いてあつたスキムミルクのこぼれかけた袋、宿直室のやけた畳の色と古ぼけた縞のカーテン等、いろんなことを思い出します。私達が何年生だったか、野木小の校歌ができて、父兄を呼んで講堂で披露したこともありまして。

この美しい校舎が壊されてしまふ―そう思ったら淋しくて、友達のみどりちゃん

二人夕方遅くまで眺めて、なかなか家に帰らなかつたものです。

今、私は、自分の子供達が卒業した小学校で絵本の読み聞かせをしています。まだあどけない子供達が、キラキラした瞳で一心に聞いてくれるととても幸福な気分になります。私自身が自然いっぱい野木の里で野性的に育てていたのだので、今のメディア漬けの子ども達を見ていると、「もつと外で遊んでね!」となるべく声をかけますが、諸事情もあり難しいでしょう。まだのんびりした雰囲気が残る

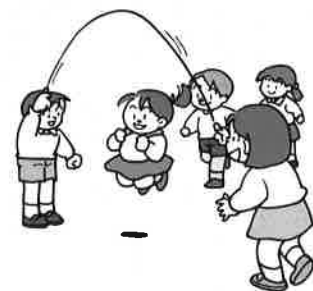
新成人からの便り

ふる里の山と川に寄せて

第91回卒(平成12年)

堤 中村有希

野木小学校を卒業して八年。幼かった私ももう二十歳になりました。今は県外に住み、短大へ通っていますが、やはり上中へ帰ってくるとほっとします。五月の連休に帰ってきた際、何年ぶりに小学校を見に行きたくなって、友人



今の野木小に通う甥や姪を見ていると、ほっと安堵します。豊かな自然よ、素直な心よ、ずつといつまでも続きますように―、と願ってやみません。

と車を走らせました。変わらないうグラウンド、校舎にとても懐かしさを覚えました。特に、今では全く口に出さなくなつた「ランチルーム」という言葉に、友人と車内で盛り上がりました。スキー場が移動していたり、新しい建物が建っていたり、私がいた頃とは少し変わった所もありましたが、野木小学校という校舎の変わらない雰囲気にとても心が温かくなり、六年間の思い出がよみがえりました。

季節を感じる通学路を歩き、学校へ通つたこと。休み時間はチャイムが鳴ると同時に体育館へ向かい、男の子も女の子も一緒にドッジボールやハンドボールをしたこと。雨が降つてもプールに入りたいと先生にみんなでお願ひしたこと。子ども会のカルタ大会で、嶺南大会へ出場したことなど、言い出したら切りがありません。のびのびと生活できる小学校が大好きでした。

県外へ出て、私は改めて自分の育つた環境のよさを知らされました。山や川があり、身近にはたくさん生き物が当たり前のように生活してい

ます。空を見れば一面に青空が広がり、夜になればあふれるほどの星空が広がっています。こんな自然の中で勉強し、遊んでいた私は幸せだなと今感じています。

二十歳になり、来年から私は保育士として社会に出ます。今は外で遊ぶ子どもが少なくなつたことなど、様々な問題があげられています。そこで私は、自分が自然の中で体験

小学時代の経験と今

第91回卒(平成12年)

武生 福田 武 広



してきたことを、子どもたちに伝えていきたいと思ひます。これがふる里野木に対する恩返しになると思ひます。

私は現在、筑波大学生物資源学類というところで、主に農業・環境・バイオテクノロジー・社会経済といった自然に関係したことを学んでいます。勉強自体は正直、苦勞することが多くたいへんです。しかし、自分の好きなことを学んでいるという点で、とても充実した毎日を送っています。

私は小学校の頃、漢字やか

け算ができず、よく先生に居

残りをさせられるような子で、

それほど頭のよい子ではあり

ませんでした。もちろん、今

でも頭がよくなったとは思っ

ていません。しかし、そんな

私をあきらめずに指導してく

ださつた先生には、今でも感

謝しています。

そんな勉強のできなかった

私でも、学校のまわりの草花

や川といった、自然が大好き

だという気持ちは誰にも負ける気がしませんでした。学校から帰つてくると、すぐにカバンを置き山へ行つたり、畑に行つたり川に行つたりしていました。山では、木に登つたり山菜を採つたりして遊び、畑では祖父の真似をして野菜を植えたりしていました。そして、川では釣りをしたり、泳いだりしていました。その中でも、畑で野菜を育てることや草花を見ることが、なぜだかわかりませんがとても好きで、毎日見ているともあきま

せんでした。学校にいるときよりも、家で植物を見たり、触つたりしていることの方が楽しいと感じることが多かつたように思ひます。もちろん、友達ともよく遊んでいました。

私は今、大学で植物関係全般を学んでいます。そんな私の一番の問題は基礎学力です。専門的な知識は負ける気がしないのですが、私が嫌いとし



てきた教科はひどいものです。一年間苦しみ抜いて勉学に励み、やっと人並みといったところ

です。やはり勉強は自分の進むべき目標のためにも、

しておいた方がよいと強く思

いました。しかし、今そんな基礎学力ばかりに気をとられて

いるわけではありません。

小学校の時から好きだつた畑

や草花という点を発展させて、

仲間を集め農業で稼ぐことを

目標とした団体「大学農家」

を立ち上げようとしています。

様々な人と交渉したり、書類

を作成したりとやるべきことが

たくさんありたいへんです。

しかし、周りのすばらしい人

達によって成功に向けて進み

出しています。今私は、小学

校の頃からの「好きなこと」

をやることができ幸せです。

そんな私を温かく育ててくれ

た地域や学校に感謝していま

児童作文 (家庭の日の作文)

おじいちゃんのたいいん

一ねん たなかゆうみ

「おじいちゃん、たいいんおめでどう。」なつやすみに、おじいちゃんがにゅういんして、しゅじゅつをしました。わたしは、おじいちゃんがにゅういんするときに、おねえちゃんといっしょに、おてがみとてづくりのくつきいをわたししました。

わたしは、「しゅじゅつ

とき、いたくないかなあ。」

とおもいながら、おかあさんとまちあいしつでまっていきました。わたしは、おじいちゃんがしゅじゅつしつからできたとき、ほつとしました。

それから二、三にちして、

おじいちゃんがたいいんするひがやってきました。わたしはすぐうれしかったです。おじいちゃんがにゅういんしているあいだ、さみしかったです。はやくおうちにもどってきてほしかったです。

いまは、おうちにおじい

わたしは、おじいちゃんがだいすきなので、これからもげんきでながいきしてほしいです。



ぼくのかぞく

二年 くわ原けん太

ぼくのかぞくは、八人かぞくです。おじいちゃんとおばあちゃんと、おとうさんと、おかあさんと、お兄ちゃん、弟ともうとです。

ぼくが五さいのときに、弟

ともうとが生まれました。

おかあさんのおなかにいるとき、

おなかをさわったら、うごいていました。ぼくは、うれしかったです。

でも、弟ともうとが生ま

れてからは、おかあさんはあかちゃんをばっかりいっしょ

にいました。ぼくは、さみしかったです。おふろもいっしょに入れないうし、おでかけもいけませんでした。ぼくは、一人でおふろに入っていました。

ぼくは、弟ともうとが生ま

れなかつたらよかつたのに、

とおもいました。

でも、今は、弟ともうとも、「けんちゃんすき。」といっしょにいます。おにごっこをしていっしょにあそぶとたのしいです。だから、ぼくはわ

かつたなどおもいました。今はおかあさんは、せんた

くものもあらいものも多いからたいへんです。ごはんのおかずもいっぱいつくってくれます。おばあちゃんも手つだつてくれるけど、おかあさんはすこいなあと思います。だから、ぼくが弟ともうとのめんどうをみてあげると、とってもよろこんでくれます。

ぼくのかぞくは、多いから

とつてもにぎやかです。そして、

ぼくにうるさいことも言います。

おとうさんは「うんどうしな、

おかあさんは「べんきょうしな、

おじいちゃんは「たべすぎるな、

おばあちゃんは「こつつい力

ぼくの家

赤ちゃんがやってきました

三年 つかもとしゆんや

今日の夜、赤ちゃんが生ま

れそうになったので、おとう

さんとおばあちゃんが、急い

でびょういんへ行つた。ほん

とうのよといびは、八月十七

日だったけど、八月三十一日

にやつと生まれた。男の子の

赤ちゃんが元気に生まれた。おとうさんとおばあちゃんの

やな」といつも言います。兄ちゃんにはゲームをとるし、弟やいもうとはぼくのノートにらくがきをします。でもぼくは、にぎやかでいつもあそんでくれるしうれいす。みんな大すきです。



話では、生まれたときは元気に「オギャー、オギャー」となっていたそう。生まれたのがよなかつたので、お昼を食べて赤ちゃんをみに行つた。

びょういんへ行つたら、赤ちゃんばかりならんでいる

へやに、ぼくの弟もいた。紙

におかあさんの名前が書いてあったので、ぼくの弟だとわかった。目をして赤いかおをしていた。だけど、とつてもかわいかった。

みんな赤ちゃんが生まれるのを、まっつてまっつてまっつたけれど、やっつと生まれたけど、元気でよかつたなとおもった。おかあさんもとつてもうれしそうだった。

びょうしつへはいって赤ちゃんをだっこした。頭も、体もやわらかかったので、ちよつとこわかった。首がやわらかいので、おかあさんが、「気をつけな。」と言ったので、首をささえて気をつけてだっこした。ぼくには、ちいさい弟がいるからとりあいになつた。おばあちゃんも、「これからたいへんやなあ。」といつてわらつていた。

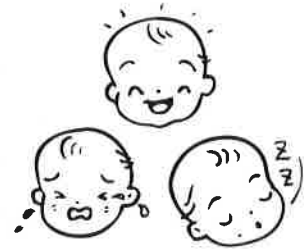
ぼくには二人も弟がいるので、けんかをするおぼくがおこられるし、面どうを見なければいけないから、これからたいへんだなあとおもった。だけど、二人の弟がいるのがちよつとうれしい。お父さんもおじいちゃんもいわないけれど、仕事がおわるとすぐび

よういんへ行つて赤ちゃんをみてるから、きつとうれしういんだらうな。

ぼくの家は、大きいばあちゃんか三年前になくなつて八人かぞくになつたけど、また九人かぞくになつた。けんかしながらも、みんななかよくくらししていきたいなあとおもう。

家が建つよ

四年 伊藤剛樹



今朝起きたら、お父さんとお母さんがいませんでした。

「どこに行つとつた。」とききました。「おはかに花をそなえに行つとつたで。」と言つていました。きつと先ぞさんに、家を建てることをほう告に行つたと思ひました。

今日は建前の日です。家の前には、直径五十七センチメートルで十メートルくらいの大きな柱が、何十本も置いてありました。一本ずつの柱の先は、四角くつき出ていたり丸く出ていたりしてました。七時になつたら、工む店の

西うらさんとおくさんが来てくれました。うちのお父さんは、おつまみとお酒の準備をしていました。お母さんは、赤と白のかまぼこを切つていました。次々に大工さんが来ました。次にクレーン車が来ました。次にクレーン車がありました。オレンジ色で首の長さは、家の二倍あつてとても大きかったです。大きな支えの足が土にめりこんでいました。

みんなでわになつてお酒を飲みました。柱を一本ずつ大工さんが手で穴にさしこんでいきました。「この柱は、く

ぎを一本も使わないで家をつくつているんだよ。」と西うらさんが教えてくれました。ぼくは、びつくりしました。柱が次々に建つていくと、

「家のプラモデルみたい。」とぼくは思ひました。クレーン車で柱を空まで上げて、たての柱のくぼみに入れていきました。それを大工さんが、コーンコーンとつちで打ちました。がつちり入つていきました。一階が終わると、二階の柱もじゅん調にはめこんでいきました。休みなしでコンコンとしていて、お昼にはほね組ができてブロックの家みたになりなりました。家の一番上のにせる太い柱に、お父さん、

お兄ちゃんとおぼくでお酒をかけた柱が、クレーン車で上げられてガチャンとはめられました。今日一日で、半分以上でできたように思ひました。高校へ行つてお姉ちゃんも、帰つたらびつくりするだらうなと、思ひました。早く家が建つてほしいです。楽しみです。

全国大会に出場して

五年 東 真 圭



八月十五日、今日は待ちに待つたバレーボールの全国大会です。ここまで来るのに、

ずいぶん苦労しました。それは、病気やけがをしないように気をつけたことです。休んでし

まうと、今までの努力がむだになり、自分自身くやしい思ひをするからです。この全国大会に出場できたのは、厳しい練習にたえてこられたことと、練習の時に送

り迎えをしてくれた家族のおかげだと思えます。ぼくは、バレーボールをやめようと思

ったことが何度かあります。そんな時、お母さんはいつも

「やめることは簡単だけれど、続けるのはすごくえらいんだ

よ。」と言つてぼくをほげま

してくれました。それを聞くと、「よしっ！まだまだやるぞ。」

という気持ちになりました。

朝八時に宿舎を出発して東

京体育館に着くと、全国から

勝ち上がってきたチームがな

らんでいました。どのチーム

も強そうで、少しきん張しま

した。

ぼくたち上中スポ少バレー

部は全部で四試合しましたが、

成績は一勝三敗でした。さすがに強いチームばかりで、ブ

ロックが高かったり、サーブ

やレシーブが上手でした。特に、

をみんなで決めました。それは、「声を出す」、「気合いを入れる」、「コミュニケーションをとる」、「相手にのまれない」、「思いつきりやる」の五つです。

二日目は、準優勝したチームと幸運にもあたりました。試合をしてみると、アタックの強さや打つコースを読むことができず、同じ小学生なのにすごいなあと思いました。勝つことができたのは、山口のチームです。一セット目は惜しいところで相手に取られました。しかし、二セット目はみんなが昨日決めた目標を思い出し、気合いを入れて声を出し合いました。みんなの動きもしだいによくなり、レシーブも積極的にボールに食らいつくようになり、このセットを取るようになりました。いよいよ勝負の三セット目です。試合の流れはぼくたちのチームにかたむいてきたので、サーブがおもしろいように決まりました。相手のフェイントも予測して取ることができ、セットカウント二対一で勝つことができました。

決勝戦は、京都と大阪のチームでしました。見ていると、サーブやレシーブ、トスもぼくたちのレベルよりはるかに上でした。自分たちの力を思い切り出しているようでした。来年はぼくも最上級生です。またこのコートに立って、今度は優勝をねらえるチームになれるようがんばりたいと思います。



家族のつながり

六年 中森麟星

七月三十一日に、ぼくは、お母さんの車に乗っていて事故にあいました。そして、救急車に乗って病院に運ばれました。病院に着いたら、いろいろな検査をされました。その時、お母さんも横で検査を受けていました。お母さんがその時にいろいろ話しかけてきたけど、ぼくは、はつきりと覚えていません。その後、すぐに手術室に行き、足の手術をしました。頭の骨も骨折していたから、下半身にますいを打ちました。でもちよつとは痛いと言われたから、ぼくは寝ることにして、

手術が終わった頃にちよつど起きました。そして、また、HCUに送られました。少しして、お父さんがきました。お父さんは心配そうな顔で、「大じょうぶか。」と声をかけてくれました。ぼくは、右目も打っていたので、あまりお父さんの顔が見えませんでした。ぼくは、その後、四週間近く入院していました。お母さんはぼくに付きそつて、ずっと一緒にいました。

入院中、たまにお父さんとお兄ちゃんがお見舞いに来てくれました。お父さんは、いろいろなものの家から持って

きてくれました。でも、お盆から、僧侶であるお父さんは忙しくなってきた。あまりこられなくなりました。次にお父さんが来たときは、ぼくが退院するときでした。病院が家から遠かったため、帰ったときには夜になっていました。久しぶりに帰ってきたので、変な気がしました。大好きだったねこにも久しぶりに会ったけど、前よりやせたような気がしました。

いろんなものが、入院する前と少し変わっていました。いつも稽古していたピアノは少し変な音がしたし、いろんな人がぼくに事故の話を聞いてきました。

でも、家で暮らせるのはホツとします。もう少ししたら、また、三週間ほど入院しなければならぬので、ちよつと寂しいです。

事故をして、入院して、痛くて大変なことばかりだったけど、おかげで、家族のありがたさが身にしみて分かりました。やつぱり家族っていいもんだなあと、改めて感じた夏休みでした。

野木小学校6年生

夢の将来

★ぼくの将来の夢は、介護士になることです。なぜなら、今お年寄りが増えてきているから、そのような人達を助けたいからです。お年寄りの笑顔を見られることが一番の幸せです。これからも、お年寄りを大事にしていきたいです。

小谷 啓太

★私の将来の夢は、保育士になることです。理由は小さい子どもが好きだからです。今は、近所の赤ちゃんをよく遊んでいます。小さな子どもに好かれる元気で、明るい保育士さんになれるようがんばって勉強したいです。

小野 桃可

★ぼくの将来の夢は、プロ野球選手です。理由は、野球をしていてヒットを打てた時うれしいのと、スポーツの中で野球が一番好きだからです。プロの選手は、よく打たないといけないし、守備もうまくなるとはいけないので、練習をがんばりたいです。

倉谷 真司

★私の将来の夢は、保育士です。理由は、小さい子が好きだからです。よくいところや親せきの子とも遊ぶと楽しいからです。これからは、小さい子どもと世話をいっばいして、優しい保育士になりたいです。武田 二葉

★僕は音楽が好きなので、将来フルーティストになりたいです。そして、これまでにお世話になった病院や学校で演奏をするために訪問したいです。

中森 麟星

★ぼくの将来の夢は、プロのサッカー選手です。ぼくはヘディングが得意なので、シュートをたくさん決めたいです。でも、ヘディングだけではサッカー選手になれないので、ドリブルやフェイントなどの練習をたくさんして、夢をかなえたいです。

新田 敏士

★私の将来の夢は、まだはっきり決まっています。けれど、できれば卓球の選手になりたいです。理由は、卓球が大好きだし、やっていることも楽しだからです。もっと強くなるために、トレーニングをしっかりしたいです。

橋本 みゆき

★私の将来の夢は、調理師です。外国に自分のレストランを作りたいです。そして、いろいろな人から「おいしい」と言われたいです。いろんな人の笑顔を見ると「がんばろう」とおもうからです。いろんな料理を作りたいです。

福田 紗希

★今、スボ少でサッカーをしているので、将来はプロのサッカー選手になりたいです。だから、もっと練習して川口のようなGKになりたいです。でも、GKだけでなくいろいろなポジションができる選手になりたいです。

山本 晃平



お知らせとお願い

野木小学校百周年記念事業の一環として、「野木小学校百周年記念誌」を発刊することになりました。その内容は、学校の移り変わり、思い出、現在の学校や児童の様子、記念行事の報告、同窓会名簿を予定しています。一冊三千円で希望者に販売しますので、皆様ご購入のほどよろしくお願ひします。また、在学中の写真（特に校舎内の様子）や文集等の記録の提供や思い出、ご意見や近況報告等（振込用紙にご記入いただいても結構です。）もお寄せいただければ幸いです。《百周年記念事業実行委員会》

編集後記

今年の夏は全国的な猛暑に見舞われ、各地でいろいろな影響が報じられておりましたが、同窓会員の皆様方がお過ごしでしょうか。母校や同窓会員の近況などをお知らせする「野木小学校同窓会報第十九号」が出来上がりましたので、お送りさせていただきます。

同窓会報の発行にあたり、原稿の執筆をお願いしました皆様方には、たいへんお忙しい中にも関わらず、早くお引き受けいただいた上に、早々に寄稿していただき誠にありがとうございます。お蔭さまで、たいへん内容のある立派な会報に仕上がりました。編集委員一同心から感謝申し上げます。

さて、昨年の野木小学校同窓会報第十八号でもお知らせしましたが、平成二十一年三月には野木小学校開校百周年を迎えることになりました。現在この記念すべき節目をどのように迎えるのか、新田賢百周年記念事業実行委員長をはじめ各委員が一丸となって案を練っておられますが、その中に野木小学校の歴史を後世に残すための記念誌発行も計画されていると聞いております。実行委員の方を通じて寄稿依頼等会員の皆様方にいろいろとご迷惑をおかけすることになるかと思いますが、主旨をご理解の上ご協力を賜りますようお願いいたします。

末筆ながら、会員の皆様とご家族のご健康とご繁栄をお祈り申し上げ編集後記といたします。